



竣工後、初めて開催された大谷幼稚園での運動会（本文中に関連記事があります）

## 目次 / contents

### ひと・まち・地域 .....

大谷幼稚園・竣工！ / 高坂憲治・三浦健史 2

東条川疏水ネットワーク博物館・聞き書きプロジェクト始動～地域の人生をほりおこす～ / 中川貴美子・森野真子・畑中直樹 4

### きんきょう .....

堺市南区で区民が主役のまちづくり / 嶋崎雅嘉・岡崎まり 6

商店街に行こう！～生駒駅前商店街から～ / 依藤光代 7

京の祭事・催事 / 三輪泰司

アイ・スポット NEWS / 絹原一寛 9

### まちかど .....

大阪の水辺が変わる！～中之島 GATE～ / 絹原一寛 10



## 大谷幼稚園・竣工！ 大阪事務所／高坂憲治・三浦健史

JR・地下鉄六地藏駅から東に上った御蔵山団地の一角に、大谷幼稚園は位置します。定員280人の幼稚園です。昭和41年創立から40年が経ち、園舎の老朽化、耐震性能不足により、建て替えを行いました。お手伝いし始めてから足かけ3年、工事がすべて終了して、9月から子どもたちが園全体を遊びまわるようになりました。私たちが力を尽くして取り組んだ大谷幼稚園についてご紹介します。

### 園の保育と藤田前園長先生

大谷幼稚園の子どもたちは、自由気ままによく遊び学びます。先生たちは、良い意味で細かいところに固執せず大らかに保育されています。そこには伝統が息づくと共に、藤田昭彦前園長先生の保育に対するお考えが反映されています。先生がよくおっしゃったのは、「大きな樹のような園舎」ということでした。様々な意味が込められていると思いますが、一つには、雨露さえしのぐことができれば、あとは子どもたちが遊び、学びを工夫して作り出すのだ、ということだと思います。大変残念なことに今年4月に藤田先生は亡くなくなりましたが、先生の熱意は私たちにも伝わりました。



園舎全景

### 作りこまない大らかさとお気に入りの場所

子どもたちそれぞれが様々な遊び、学ぶように、その仕方をあまり特定したくないと考えました。そして多様な遊びや学びの空間を、園全体で実現させることを目標としました。もう一つに、子どもたちそれぞれのお気に入りの場所ができれば、と考えました。いろいろなあり方で、いろいろな居場所がある、ということとはとても大事だと考えます。これらの考えは、屋内と屋外をつなぎ広がり可能性を持たせた保育室、保育室と園庭の間の土間的に使われるロτζア（開廊）や、回廊、ワークスペースの構成によって実現をめざしました。

### 通路としてだけでなく遊びや食事の場になる回廊

敷地内には高低差があり、南側に宇治陵という藤原氏の陵墓があるなど、高低差の処理は難しいところでしたが、このことを逆に活用して回廊を設けました。回廊はバス駐車場につながっており、バス通園の子ども玄関となります。上下や左右で視線や声を通り、子どもたちが立体的に遊び、先生の見守りもしやすくなっています。行きどまりがないので、ぐるぐる走り回る子もいます。宇治陵の木が近いので、お天気のいい日は回廊

でお弁当を食べたりもします。また運動会の日には保護者の観覧席となります。このように、回廊は幼稚園の生活に無くてはならない場所になっています。

### いろいろな使い方を許容するクラスを超えたワークスペース

一方、園舎内部のワークスペースも無くてはならない場所です。保育室をつなぐように設けたワークスペースはクラスを



保育室

超え、年齢を超えた園児の活動の場です。そこでもいろいろなことが起こっています。時間にしばられずに制作・創作活動に取り組んだり、黒板があるので落書きをしてみたり、大型の積み木で基地を作ったり、読書スペースだったり、等々。回廊とワークスペースだけでなく、あらゆる空間が遊びの場、学びの場となっています。

#### 彩りを添えているスタンドグラス

全体的にはラフな感じにしていますが、重ね色目を元にした日本の伝統色をポイントで入れました。また主任の竹田先生がデザインされたスタンドグラスもとても素敵に仕上がりに、園舎に彩りを添えています。

#### 発展する姿

他にも、四季を感じられる樹種や畑、秘密の隠れ家スペースなど特色には枚挙に暇がありません。今



バス通園の玄関



ワークスペース

後樹木がどのように育っていくのか、使われ方が発展していくのか、とても楽しみです。今回の建て替えでは将来展望を見据えて可変性を持たせています。預かり保育室やクッキングルーム、それに隣接して食堂としても使われる多目的保育室などは、保育内容の広がりや制度の変更にも対応できるようにしています。

#### 最後に

藤田前園長先生の薫陶を受けた主任の竹田先生をはじめ先生方、新しい園長になられた佐賀枝先生、細川専務理事をはじめ真宗大谷学園本部の皆様、施工を担当した竹中工務店と私たちが一体となって実現した幼稚園です。関係者の皆様にすばらしい経験を共有できたことを感謝するとともに、大谷幼稚園が子どもたちに末永く愛されていくことを願っています。



奥には秘密の隠れ家



## 東条川疏水ネットワーク博物館 ・聞き書きプロジェクト始動 地域の人生をほりおこす

大阪事務所／中川貴美子  
森野真子・畑中直樹

### 聞き書きプロジェクトの始動

平成 23 年度に兵庫県北播磨県民局を実施主体として、基本コンセプトを「地域の手で次世代のために水の恵みを活かす」とする「東条川疏水ネットワーク博物館構想」が策定されました。

策定にあたっては、小野市と加東市の地域の方など約 60 名(事務局含む)が参加した「地域座談会」と内田一徳先生(神戸大学農学部教授)を会長とした「東条川ネットワーク博物館研究会」を開催し、地域のみなさんや専門家の方と共に考えました。

「地域座談会」では「東条川疏水や地域の話や魅力を掘り起こしたい」、「水のゆくえをおもしろく伝えたい」など、たくさんの意見が出されました。その構想を具体化する取り組みのひとつとして、平成 24 年度から地域の人生をほりおこす「聞き書きプロジェクト」がスタートしています。

### かつては水争いが絶えない地域だった

東条川疏水は加東市、小野市、三木市に農業用水を供給し、一部は水道用水としても利用され、全国疏水百選にも選定されている疏水です。

東播磨地域は日本でも特に雨の少ない地域で、かつて、この地域に暮らす人々は水を得るための工夫や努力を積み重ねてきました。昭和 3 年の大干ばつを契機に昭和池築造が始まり、戦後初めての国営事業として鴨川ダムが昭和 24 年に着工しました。

他にも、建設当時の土木技術では不可能とされて

いた「船木池」のアースダム、当時の土木技術の粋が集結された「安政池」、大きな谷を渡る 1,087m もの曾根サイフォンや、水を公平に分配する六ヶ井円筒分水など、高度な土木技術が集結しています。そして、今日では酒米の「山田錦」を産するなど、優良農業地域へと大きく変貌しました。

### 地域の人生をほりおこす「聞き書き」

「聞き書き」とは、語り手と聞き手が対話を重ねながら、語り手のこれまでの人生の中での出来事(仕事や生活、地域の風習等)や感じたことなどを聞きだし、「話し言葉」のまま文章化していく取り組みです。先進事例では、今年度で 11 回目となる「森の聞き書き甲子園」があり、年間 50～100 名の高校生が森や海・川の名手・名人を訪ね、知恵や技術、人生そのものを「聞き書き」している活動があります。

本地域では、地域の大学生を中心とした若者と地域の方々の世代間交流により、鴨川ダム等の築造時のこと、水と苦労しながら共に生きてきた日々など、地域の人生を次世代につなぐ取り組みとして「聞き書き」を実施することとなりました。

### 聞き書きプロジェクト キックオフ研修会

聞き手は兵庫教育大学の学生を中心に有志が集まりました。研修は 1 日にわたって行い、午前中は「聞き書き」についての講義を、午後からは地域の方にもご参加いただき、「聞き書き」を実際に体験します。



大きな谷を渡る 1,087m もの曾根サイフォン



建設当時の土木技術では不可能とされていた「船木池」のアースダム



水を公平に分配する六ヶ井円筒分水



聞き書き研修の様子：  
写真を見せてもらいながら、東条湖の歴史を聞く

午前の講義では、南塾猛先生（兵庫教育大学准教授）から聞き書きと学校教育のつながりについて、小野市立考好館の西田副館長からは地域に入っていくための心構えについてこれまでの実践経験を踏まえながら講義をしていただき、事務局から「聞き書き」の基本的な手法について説明を行いました。

午後からはいよいよ研修本番。学生たちは聞き書き計画を作成し、地域の方々にお話しを聞きました。学生たちも、語り手も初めての体験とあり、やや緊張気味ではありましたが、30分もすると学生も自然に次の質問が出てきたり、会話がどんどん進み、時間はあっという間に過ぎていきました。

**引き継がれる地域の歴史、想い**

学生からは「初めて知る話ばかりだった」「地域



聞き書き研修の様子：  
聞いた話を悩みながらまとめる学生



聞き書き研修の様子：聞いて感じたことを発表

を愛する語り手の思いを感じた」「自分ももっと勉強したい」など、短時間ですが、着実に、地域の歴史や地域の方の想いを感じたようです。

今後、研修を受けた大学生を中心に地域の高校生も加え、実際に地域の方（90歳以上の方も！）を訪問し、「聞き書き」を実施していきます。

最後に、研修後に学生が書き起こした「聞き書き」からほんの一部ですが、ご紹介します。

**（語り手：東条湖で40年、観光業で働かれている方）**

私が一番良いと思うのは人間が働いているのが見えないこと。他の観光地、どこ行っても田んぼで草かっとするし、ここはもともと山のでっぺんだけですから工場も見えへんし、遊びに来たもんだけが寄ってる。そんなとこ観光地で他、少ないから良いと思うんです。

**（語り手：長年、東条川疏水のフィールドワークを実践されてきた小学校の先生）**

人間の作ったものは知恵の塊やねん！それがないと色々困るやろ？そないしてみたら知恵の結晶っていうのは子どもも感動するねん。そういうものの見方を教えるのがフィールドワークやねんな。人間っていうものは工夫するもんやねん。そういう生き方のヒントも教えられるねん。



## 堺市南区で区民が主役のまちづくり

大阪事務所／嶋崎雅嘉・岡崎まり

### 区民と区役所の協働事業

堺市南区では、区民と区役所の協働によるまちづくりの取り組みが進められています。

その主体である「区民まちづくり会議」では「交流班」「魅力班」「安心班」の3つの部会ごとに、区民主体の様々な取り組みが企画されています。

今回、この秋に行われた2つのイベントについてご報告します。

### こおどり・みのり・秋めぐりツアー

10月7日（日）には、魅力班の企画により「こおどり・みのり・秋めぐりツアー」が開催されました。

魅力班では南区の魅力を内外に発信するために、情報だけでなく、実際に訪れて体験してもらうウォーキングツアーを実施しています。

今回のツアーのタイトルにもある「こおどり」とは、無形民俗文化財にも指定されている伝統のおどりです。堺市唯一の国宝である桜井神社の拝殿の前で奉納されます。

今回、ツアーに同行していた郷土歴史家の桧本さんの講座によると、「こおどり」の名前の由来は様々であるが雨乞いのための「乞う踊り」であろうとのこと。

ゆっくりとした独特のリズムの踊りを見ていると、鎌倉時代から脈々と、受け継がれてきた地域の歴史と住民の思いを感じます。



無形民俗文化財に指定されているこおどり

### 区民発の取り組みであることの魅力

ツアーは、桜井神社での見学のと、黄金色に染まる田園風景の中を歩き、法道寺・国神社へ向かいます。ここでは泉田中のだんじりの巡行と、先ほどの「こおどり」の一行が合流し、だんじりと踊りの迫力ある掛け合いが始まります。

このような光景が繰り広げられていることは堺市内でも知らない人が多く、今回のツアーのように区民発の取り組みであるからこそ伝えられる魅力です。

当日の様子を実況中継したツイッターのまとめがありますので、ぜひご覧ください。

<http://togetter.com/li/390834>

### 田んぼにGO 畑にGO

10月21日（日）には、交流班の企画により「田んぼにGO 畑にGO」が開催されました。

この事業は「旧村とニュータウンとの地域交流」を目的に実施しており、今年で3年目になります。当日は天気にも恵まれ、清々しい秋晴れの中、66組（196人）の家族が稲刈り・サツマイモ掘り・枝豆取りを体験しました。

当日は地域の農に携わっている方々や農業ボランティアの方々が、稲刈りやサツマイモ掘りなどの指導、体験後に参加者に振る舞う焼芋や枝豆の準備を手伝ってくれており、多くの方との協働のもとで事業が実施されています。

### 田んぼの中で音楽会

3年続いているこのモデル事業は「地域間交流」を目的に実施してきましたが、今年度は参加者同士の交流や多世代交流に繋がることも何か実施できないか



田んぼの中で音楽会

と話し合いを進めてきました。

そして新たな試みとして、稲刈り等の体験後に「田んぼの中で音楽会」を開催しました。

田んぼにGO 畑にGOへの参加条件が小学生以下の子どもがいる家族となっていることから、その枠に入らない中学生等に出演を依頼し、音楽を通した多世代交流を実施しました。

当日は3団体に出演していただき、南区内にある三原台中学校吹奏楽部による演奏やポイヤ水晶玉といったジャグリング道具を使ったパフォーマンス、和太鼓演奏をしていただきました。演奏が始まると、普段はあまり直接見たり聴いたりできない迫力ある演奏に引き付けられて、子ども達が舞台そでまで集まってきました。水晶玉を使ったパフォーマンスでは、「何で浮いて見えるのかな？」と不思議に思った子ども達が思わず舞台の横まで見に来たりと、3団体それぞれのパフォーマンスに会場中が笑顔につつまれました。

昨年度までは、稲刈り等の体験が終わると家族ごとに焼芋などの試食をしてばらばらと帰っていましたが、今年は音楽会を行ったことで参加者全員が音楽に合わせて手拍子をするなど会場全体に一体感が生まれ、家族の垣根を越えた交流が生まれたように思います。

交流班では、今後、地域間交流だけでなく、多世代交流等への取り組みにも力を入れていきたいと考えていることから、今回試験的に実施した「田んぼの中で音楽会」をきっかけに様々な活動を展開していきたいと思っています。

## 商店街に行こう！～生駒駅前商店街から～

大阪事務所／依藤光代

### 関西初の「100円商店街」～生駒駅前商店街

大阪府下の商店街で、100円商店街がものすごい盛り上がりを見せています。100円商店街は参加店が100円の商品を店頭で売るといったイベントで、山形県新庄市の商店街で始められました。このイベントを関西で初めて開催した、奈良県生駒市の生駒駅前商店街の取り組みをご紹介します。

生駒駅前商店街は連合会が運営しており、8つの商店街や商業施設から成ります。生駒駅前にある商業施設や近鉄百貨店も一員です。4年前に第1回目100円商店街が開催されてから年に4回ずつ定期的に開かれており、もう17回目を数えるまでになりました。

100円商店街当日は、小売業、サービス業に関わらず100円の商品を店の前に並べ、通りは大いににぎわいます。今年のゴールデンウィークに行った100円商店街は、天気にも恵まれ、過去最高のにぎわいだったそうです。



お客さんと賑わう100円商店街（生駒駅前商店街）

これまで順調に客足を伸ばしているこのイベントも、実は地道な努力の積み重ねがありました。

#### 参加店舗の理解を得るために

関西初でもあり、開始当初はノウハウもなく、会員店舗向けの説明会や勉強会を開催しながら参加店舗の理解を得たそうです。また、斬新な試みということで新聞社やテレビ局が取材してニュースにしてくれました。そのたびに記事をコピーして、各店舗一軒一軒に手分けして配布されました。こうして商店街全体の士気を高めながら、少しずつ理解を得ていきました。

実際に各店舗を回って理解を得て回るのは、商店街連合会の役員の役割です。それぞれの所属する商店街や商業施設を担当して、責任を持って行っています。

#### お店どうしの関係づくりー新旧の壁を超えて

生駒駅のちょうど南側に面する商店街「サウスモール」では、毎月定例的に集まって、みんなでアーケード周辺の清掃をされています。清掃が終わった後は、参加者みんなでモーニングを食べながら話をするそうです。サウスモ-

ルには地元のお店だけでなく全国展開しているチェーン店やサービス業のお店もありますが、清掃活動には参加されています。

100円商店街にもチェーン店やサービス業のお店が自然と参加協力しているのは、日ごろからのこうした関係づくりの取り組みがあるからではないでしょうか。

また、普段は交流のないお店どうしも、100円商店街を開催する中であいさつをするなど声を掛け合う機会が生まれるそうです。このように、活気ある取り組みは新しいつながりも生み出します。

#### 商店街のリーダー

商店街では担い手の世代交代が課題と言われていますが、盛り上がり続けている商店街のリーダーは、何歳でも元気で前向きだと感じます。連合会会長の稲森さんは商店街の長老ですが、新しいことにいつも興味を持ち、情報を集めたり独自に勉強されたりして、その姿勢に感服させられます。

次の展開とは聞くと、「まちなかバル」の開催とのこと。チャレンジに、終わりはないようです。

#### 京の祭事・催事

名誉会長／三輪泰司  
(NPO 平安京・代表理事)

10月は京都で一番お祭りが多い月です。オマツリにもいろいろあります。“ちらし”を3つご紹介します。

#### 8年目の祭（京都府庁旧本館）

2004年（平成16）、京都府が京都府庁旧本館竣工100周年、重要文化財指定を記念して公開事業を始めて今年で8年になります。



2008年（平成20）9月に府民参加のプラットフォーム「京都府庁旧本館利活用応援ネット」創設、座長を勤めて4年になります。

府庁舎での連続講座は第6シリーズに入り通算18回。食のこだわりマルシェも10月14日の13回には参加店30を越え、定例年4回型で定着しています。

10月27日から11月11日まで「秋の一般公開」です。春は桜の下での賑わい、秋は芸術・展示に、ステージも多彩。新しい参加の場になっています。展示では、布と同じ工程・染料で杉板に表現する技術、ステージでは学生のおどり「京炎そでふれ」、無声映画と放送劇団の共演など。文化財資産は物的な空間・建造物が、無形の技を智恵で結ぶことで、現代に、生きてきます。

**130年目の祭（京都商工会議所）**

10月27・28日、みやこメッセでの今年の「京都産業まつり」は、格別な催しでした。

京都の最先端テクノロジーと日本近代化の「礎」を創った技

術・逸品の展示。その原動力となっていた進取の精神、その根底にある「家訓・社訓」に伝わる高い倫理観と商人魂に見る経営理念の承継アピールが光っていました。

明治15年創立の京都商工会議所は、今年130年になります。

創立百年の時、私は51歳でした。1982年（昭和57）10月16日、国際会館で記念式典が開催されました。議員に推挙頂いたのは阪神・淡路大震災の年、64歳です。まだ下積みで働いていました。

丁度、関西学研都市構想を推進の真っ最中、初めて高槻市公営企業審議会の重責を仰せつかった年、アルパックも九州に続いて名古屋事務所創設の頃で、むちゃくちゃに忙しかつたのですが、体力はありましたね。「京都経済の百年」と題する記念誌に関わりました。

実は、明治15年（1882）、京都経済は大ピンチの時代でした。

調べてみて驚いたのは会議所設立メンバーの年齢。山本覚馬（新島八重の兄）が最年長で57

歳、会長・高木文平40歳、内貴甚三郎35歳、大沢善助29歳。

リーダーの中核は40・50歳代で、若者を引き立てるべしです。

**1218年目の祭（平安京）**

秋10月の祭と言えば、22日の時代祭。その夜の鞍馬火祭。

その前日「プレイベント」と称して「平安京遷都ものがたり」を始めました。

京都市埋蔵文化財研究所主催。4会場のうち、NPO 平安京は、大極殿跡・内野児童公園会場を受け持ちました。

平安京遷都の詔（みことのり）から始まって、平安雅あそび、アートマーケット、源氏物語絵巻展示など繰り返しました。

ハイライトは「平安の調べ」。新京を寿ぐ「平安楽土、万年春」のことは伝わっていますが、メロディが判らない。七五・四句ですが平安中期の「今様」の前です。越天楽を元に作曲して頂きました。

ソフト・ハード併せ、文化財資産を、まちづくり、ビジネス起こしに活かす「智恵」の時代です。





# アイ・スポット NEWS

## 「御堂筋まちづくりトーク#1」を開催しました

9/26(水)に、大阪府市特別参与として大阪府市都市魅力戦略会議に参画しておられる大阪市立大学大学院准教授の嘉名光市先生を招いて、御堂筋と大阪のまちづくりについて、今後の都市魅力戦略も交えてお話をうかがいました。

御堂筋が整備された歴史的な経緯を当時の設計図などをもとにひもときつつ、現在のまちなみが生まれている背景を語っていただきました。「100尺規制」といった沿道の規制・緩和との関係や、建物の壁面後退部分の空地の活用方法、大阪府市都市魅力戦略会議での議論、さらには海外事例も交えたこれからの都心のまちづくりの方向性をお話いただきました。

最後の話題の中でニューヨークのタイムズスクエアのBID (Business Improvement District) について触れられ、「大阪でもこのような動きが実現してほしい」と力を込めてお話しされ、これからの御堂筋のまちづくりへの熱いエールを送られていたのが印象的でした。

会場からは多くの質問・意見が寄せられ、熱気にあふれたトークイベントとなりました。



御堂筋まちづくりトークの様子

## 「水都大阪フェス 2012～水辺のまちあそび」の企画展示を開催しました

10/4(木)から、水都大阪フェス 2012～水辺のまちあそびの企画展示を開催し、当日プログラム等のパネル展示と、先日開催した水都大阪フェス 2012のディレクター泉英明氏を招いたトークイベントのパネル展示を行いました。期間中、多くの方が興味を持ってご覧になったようです。

## 「チームビルディングの実践ワークショップ」を開催しました

10/30(火)に、立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構研究員の乾明紀先生をお招きして、参加者同士がチームビルディングを学び合う実践形式のワークショップを開催しました。乾先生は弊社の研修会に参加いただいたご縁でお声かけし、今回の企画が実現しました。

参加者も普段まちづくりに関わっておられる方だけでなく、御堂筋で働くビジネスパーソンや学校の先生や学生など、いろんな方にご参加いただき、チームビルディングが今後様々な場で重要になってくることを実感しました。内容も、先生の非常にテンポの良い進行、かつユニークな



ワークショップの様子

プログラムで、普段ワークショップを実践している我々にとってもたくさんの発見がありました。

## 「企業市民のまちづくり」セミナーを開催します

また、12/11(木)には、中央区企業と地域とをつなぐ活動を実践する「中央区フィランソロフィー懇談会(CFK)」の代表幹事を務められる石黒修氏をお招きして、まちづくりの担い手としての企業市民の活動についてご紹介いただくセミナーを開催します。こちらもよろしくお願い致します。

今後とも、様々な企画を開催していきますので、ぜひともホームページをチェックしてください。

## アイ・スポット NEWS

<http://www.arpak.co.jp/i-spot/>

※アイ・スポットは、淀屋橋にある大阪市のまちづくり情報発信施設です。アルパックでは大阪市から管理・運営を受託しています。

(大阪事務所／絹原一寛)





## 大阪の水辺が変わる！ ～中之島 GATE～

大阪事務所／絹原一寛

10/13から21にかけて開催された水都大阪フェス2012。各会場で趣向を凝らした楽しいプログラムが展開され、多くの人でにぎわいました。そのプログラムの一つで、大阪中央卸売市場南側で開催された「中之島 GATE プロジェクト」に、ミュージシャンとして出演させて頂きました。

きっかけは水都大阪フェスのディレクターであり、この中之島 GATE の企画・運営を取り仕切る泉英明さんからの誘い。実は、9年前に大正・尻無川沿いで都市大阪創生研究会の有志が取り組んだ「リバーカフェ」でも同じように演奏したのですが、その時にも泉さんが関わられていて「あの時の再来を！」ということで実現したわけです。

会場は、対岸の住友倉庫をライトアップした、ムード満点の場所。出店したレストランも美味しい食事・お酒を提供してくれました。若干交通アクセスに難のあるところにも関わらず、常時人が集い、時には船で訪れる方もおられ、まさ



ムード満点の中之島 GATE

しく GATE に相応しい場所の可能性を見せてくれました。私のトランペットに加え、サクソ、ピアノ、ベース、ドラムのクインテットの編成、ジャズのスタンダードを中心に時間も忘れて演奏、最後はアンコールも頂くなど盛り上がり終了しました。

泉さんとは「9年前とやっていることは全然変わってないよね」と笑っていたのですが、水辺を取り巻く状況や環境は泉さんらのご尽力で大きく変わりつつあることを実感した一日でした。この中之島 GATE プロジェクトは来年度以降の本格展開に向けた試金石となっているようで、日常的に賑わいの声や音楽が水辺に響く、そんな空間がぜひ実現できればと願っています。



ライトアップで美しく浮かび上がる住友倉庫

## アルパック(株)地域計画建築研究所

Architects Regional Planners & Associates・Kyoto

<http://www.arpak.co.jp> E-mail [info@arpak.co.jp](mailto:info@arpak.co.jp)

本 社

京都事務所 〒 600-8007 京都市下京区四條通り高倉西入立売西町 82  
大阪事務所 〒 540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F  
名古屋事務所 〒 460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F  
東京事務所 〒 102-0074 東京都千代田区九段南 3-5-11 スクエア九段ビル 1F  
九州事務所 (株)よかネット 〒 810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764  
TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478  
TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760  
TEL(03)3288-0240 FAX(03)3288-0221  
TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128